

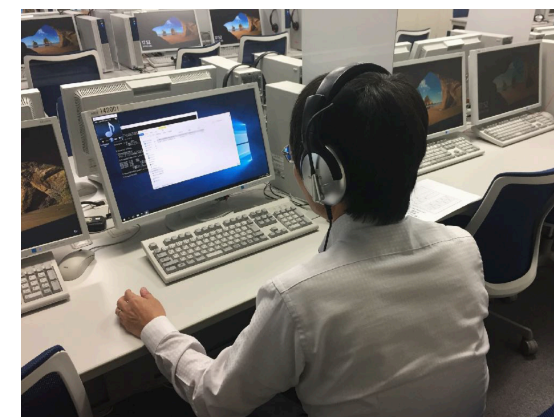
トラブルシューティングマニュアルの作成と継続的な更新

●2018年度実施試験におけるKIT Speaking TEST実施時のトラブル対応 ・トラブルが発生した場合 学生番号・OSアカウント(アプリの)受験ID・移動後 移動先の科目室(S-1～S-5F)/教室/座席番号・トラブル内容 も必ずマッピングすること。 ・PC点検の場合 試験不可または故障、以降の試験でも使用不可のため、PCEに使用不可の旨、即ち紙を渡す。 KIT進行役にて、学生の予備席への誘導をお願いする(上記取組事項の連絡は同様) を要する。 ・ネットワークケーブルからの回答データ回収失敗しPC(試験中にChatで報告あり)は試験終了後 USBメモリデータあるのを確認したら、USBメモリは回収し、予備USBメモリを装着。 エクスプローラーでファイルと確認およびアプリを立ち上げログイン画面が確認できたら完了 ・予備席へ移動した場合変更がない場合 予備席不足の場合：Windowsログイン役でPCが正常に稼働し且以降のトラブルの場合は、再開テスト 受け付けは基本利用不可(※) ※一度予備席を空けておく必要があるために関してUSPC(USBメモリ使用しない)。継続後確認を行う計画がない。		試験前 学生自身のOSアカウントでログインできない 試験前 予定していた座席が 受験開始前からPC故障で使えない 試験前 キーボード・マウスの故障 試験前 リントル音声が聞こえない	試験前 学生自身のOSアカウントでログインできない 試験前 予備した座席が 受験開始前からPC故障で使えない 試験前 キーボード・マウスの故障 試験前 予備席不足の場合：Windowsログイン役でPCが正常に稼働し且以降のトラブルの場合は、再開テスト受け付けは基本利用不可(※) ※一度予備席を空けておく必要があるために関してUSPC(USBメモリ使用しない)。継続後確認を行う計画がない。	・各部屋のKIT進行役にて、OS一時アカウント(short0xx)を受験者に払い出し、 イコミ部屋担当に、払い出した受験者の学生番号・OS一時アカウント名を伝える。 ・当該時間帯では予備席移動とする。 ・(KIT進行役)→イコミ部屋担当→(Chat)→イコミ植野→KIT側CIS山本様へ連絡。 受験者の入室時間帯で交渉対応を依頼。 ・「2018年度進行スライド(20181204).pptx」の5ページ目に 出題音量の調整説明 (Check)Windowsのスピーカ音量のチェック(デスクトップ右下のスピーカアイコンをクリックして× or 0になっていないで) →スライダーを動かして音量調整後、再度リントル音声を再三確認。 ・それとも聞こえない場合は、ヘッドセット予備機に交換。 ・ヘッドセット交換でも聞こえない場合はPC故障(音声出力部)として予備席移動とする。
--	--	--	---	---

ヘッドセットの劣化対応



実施前夜の全台確認



それでもトラブルは起こる

実施回	トラブル	原因	改善策	人数
第1回学内実施 (2014年度)	途中の1問を回収できず	PC上で「次の問題」ボタンをダブルクリック	アプリ改修（「次の問題」ボタンを廃止し、自動的に次の問題に進むようにした）	3名
第2回学内実施 (2015年度)	全9問を回収できず	ヘッドセットのケーブルがPCに十分に挿入されていなかった	アプリ改修（ヘッドセットのケーブルがPCに挿入されていないと、アプリが動かない仕組みにした）	3名
	最後の3問を回収できず	テスト中にヘッドセットのケーブルがPCから外れた		1名
	回答の保存先不明	前の受験者がPCをログアウトしておらず、次の受験者が前の受験者のアカウントを使用して、テストを受験した	・受験終了後のログアウトの徹底 ・PCがログアウトできていることを担当者が確認	1名
第4回学内実施 (2017年度)	録音された回答音声の音量が極めて小さい	新調したヘッドセットのマイク初期不良	テスト前日に、ヘッドセットを用いて録音ができることを全台で確認	1名
第5回学内実施 (2018年度)	全9問を回収できず	（おそらく休憩時間中の）ヘッドセットケーブルの断線	ヘッドセットの全台点検、シリアルNo.を付け管理	1名

「トラブルはない」と言う事業者は隠蔽している。隠蔽するような体質の事業者は、トラブル防止やセキュリティの確保自体が正しい加減である可能性が高い。

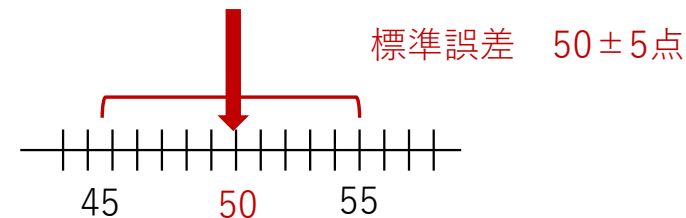
◆ 項目反応理論（IRT）による共通尺度化

- ・ 民間英語試験は，受験した年，回，会場にかかわらず，どのテストを受験しても，得られるスコアは同じ意味をもつ。
 - ← 標準化されている/標準化テスト（standardized test）であるという前提
- ・ 共通尺度化の限界もあるし，専門的かつ緻密な計画が必要だが，日本にはテストアドミニストレータが少なく，事業者ごとに育成しているのが現状。

◆ スコアのもつ意味

- ・ テストの実施者が測りたいと考えている **一次元の構成概念**の大小に比例した値（単一の構成概念の大小を一次元上の尺度で表示している）。
- ・ スコアには「標準誤差」があることが前提

測りたい能力を反映したスコアの点推定値



テストのスコアは，ものさしのようにはっきりしたものではない。スコアで競争させる場合は，信頼性の高い，質の良いテストを用いなければ，ステークホルダーが納得する結果が得られない。テストの性能には限界がある。限界を超えた利用をすると，結果が信用されなくなり，制度自体が崩壊することもありうる。